

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201496		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	サポートピア花水木		
所在地	長崎県佐世保市藤原町5-1		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の入れ替わりもあり、お元氣な面々が増え活氣ある活動がみられる。その反面、コロナウイルスの影響で十分な支援が出来ず、感染対策とレベル低下を防ぐ事に、重点を置いている。職員は、ベテランが多く安心した支援提供が可能だが、だんだん年を重ねて体がついていけない時もある。お互いを励まし合い助け合って、後に続く職員の育成にも力を入れている。入居者や職員が、共にこの困難な状況を打開出来るように、とにかく笑顔を決めると頑張っているホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年10月11日		

当ホームは、佐世保市中心部の藤原町に位置し、佐世保駅や佐世保みなとインターチェンジにも程近く、閑静な住宅街の一角にホームがある。公共交通機関や自家用車等、交通面や生活面でも利便性に恵まれ、家族にとって行きやすい環境下にある。ホームの近隣には稲荷台公園があり、入居者の散歩には適しており、外気浴や日光浴の場所として利用したり、コロナ禍で地域との繋がりが困難な中、地域住民と交流できる場所として活用している。入居者の以前の職業や性格等、得意とする部分を尊重し、上手く引き出しながら入居者がホームで充実した生活が送れるよう取り組んでいる。自立支援を心掛けながら、その人らしい生き方を継続できるよう居心地の良い環境作りにも力を入れ、施設長とベテラン職員との意思疎通を図り、互いに助け合いながら充実した入居者支援に繋げている。施設長は副施設長とともに笑顔を決めやすい姿勢でホームの運営に携わりながら職員の頼れる存在として指導力を発揮されており、職員と入居者及び家族の安心感にも繋がっている。今後の更なる職員育成と入居者支援に期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりと楽しく自由にありのままに、馴染みの環境で、地域と共いの理念を、理想のみで終わらぬよう日々目標として努力している。	職員は、ホームの理念である「ゆったりと楽しく自由にありのままに、馴染みの環境で、地域と共に」を日頃から意識した支援に努めている。職員個々で自己評価を行い、振り返ることで自身の弱点を把握し、施設長と達成度の確認を行うと共に次年度の目標の立案と理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルス感染予防のため、ほとんど交流は出来ていない。しかし、地域の商店など利用することによって、少しでも関係を持ち続けたいと思っている。	コロナ禍以前は、地域の協力のもとでバザーを開催し、地域住民や地域以外からも参加があり、好評を得ていた。コロナ禍により地域との交流を自粛する中、近隣公園の地域清掃時にホームより菓子等を差し入れ労いの気持ちを伝える等、現在も地域との繋がりを大切にしている。また、運営推進会議メンバーを通して地域との情報交換を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を窓口として、地域の交流を積極的に行っていたが、コロナ禍では会議が開催出来た時や、電話でのやり取りなどで貢献出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり感染予防対策のため、ほとんど書面会議にて対応。	運営推進会議は地域での新型コロナの感染状況を踏まえ、書面会議に切り替えたり、ホーム1階の元デイサービス事業所で開催している。ホームでの運営状況の報告と意見表を事前にメンバーに送付し、その意見を反映した議事録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの通知・アンケート・調査等の連絡はメールにてやり取りを行っている。何かあれば、必要に応じて連絡を行っている。	ホームは、各種研修案内について地域包括支援センターから情報を得たり、保健所からコロナ感染対策の各ゾーンの区分けや隔離について指導を受けた。また、嘱託医を通じてコロナ感染予防の為、ホーム関係者が予防接種を受ける等、日頃より市町村や関係機関と連携し協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化のための勉強会及び委員会の開催を行い、様々な課題に向けて協議を行っている。	高齢者に対する身体拘束・虐待防止等について委員会を開催し、委員会を中心として定期的な勉強会を実施している。異食等の行為がある入居者への対応には家族の同意書と経過観察の記録を残し、慎重に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会や、委員会を立ち上げて、予防を目的として話し合いをしている。そして、ホーム会議などで全職員に共有するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関して詳しくとまではいかなくとも、勉強会等を通して知識の習得に努めている。これから益々必要になる可能性もあるため、活用方法など学ぶようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に分かり易く説明するように心がけている。家族も高齢化しているので配慮が必要だと思う。出来るだけ、一人以上の立ち合いをお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明、預り金の受け取り、衣類など物品の受け取りなどの際に、家族からの要望など聞き、出来るだけ可能な対応を心がけている。運営母体にも、必要であれば知らせるようにしている。	ホームは家族の面会時や電話連絡時に要望等を聞き取り、聞き取った内容をケース記録に残している。また、コロナ禍の中でも家族との面会に工夫を凝らし、状況に応じて直接本人と面会ができるよう努めている。	ホームでは、コロナ禍により入居者と直接面会することを制限しているが、日頃の生活状況を撮影し動画で家族に見てもらえるよう機器等を準備している。今後、入居者の動画や写真等、希望に沿った対応ができることを全家族に周知し、面会制限下であっても工夫しながら関係性の継続と交流が継続できるよう取り組むことに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、年一回の個人面接を行っている。職員の心のゆとりが、ケアに多く反映される為、良い方向へ向かうと思えることは、本社の方とも話あっている。	ホームは職員に対し、いつでも個別の面談に応じることができる。月1回の会議では職員と活発な意見交換を行うなど、運営に関する様々な意見を反映している。ハラスメント対策としてマニュアルを作成し、勉強会を行い、ハラスメントの起因や対応等についてホーム全体で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢問わず、やる気や職場愛がある人は、昇進や昇給が望める職場だと思う。穏やかな環境の中で働ける用に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の要望や資格習得など、必要とする研修や勉強会には、オンライン研修を含め受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や交流会は、現在も自粛中で書面でのみの交流となっている。電話等での、意見交換や近況報告など親しい施設の方々とは行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近の入居者に限っては、感染対策のため事前調査が書面でのみの場合がある。家族や関係機関への聞き取りを行い、可能な限り本人の意向を知るように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	とにかく入居させたいと切羽詰まった状況の家族が多いと思う。入居の目的が達成されても、うまく生活に馴染んでもらえるかという心配もある。任せてくださいと、安心してもらえるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の高齢化に伴い、全てを依存される事が多くなった。出来るだけ対応するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや洗濯物たたみや食器洗いや掃除など出来る範囲で得意とすることをお願いしている。職員が、教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲で協力いただいた家族も、コロナ禍により控えてもらうようになった。面会が窓越しに出来るようになったので、足を運んでもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍により、積極的に関係が持てない状況は続いている。窓越しの面会や時々写真を家族に送ったり、電話で家族と話せる機会を持つなど支援を行っている。	入居時に、以前の生活状況について家族や前施設担当者等から聞き取り、ケース記録に残している。入居時に入居者の詳細な情報を手紙に書いて渡す家族もあり、入居者の大切にしてきたことや馴染みの深かった人や場の把握に努めている。以前からの馴染みの飲食店に行き、懐かしい味を食してもらったりなど、個別に楽しんでもらう場面を作りながらこれまでの関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話は、ほっとするものがある。しばらく仲良くしていても、喧嘩に発展することもあるので気が抜けないが、孤立しないよう付かず離れずの見守りをを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りケアを行った方の家族が今でも二人、運営推進会議のメンバーとして、活動してもらっている。相談したりされたりして、お互い交流を続けている。関係が継続出来るのは、嬉しいと言ってもらえるのがありがたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向で多いのは、自宅へ帰る。家族と一緒に暮らしたいなど。家族と電話で話しても、訴えが出来ず悶々とされる場合がある。季節や時間帯の問題もあるので、落ち着きを取り戻す為の案として、家族とのやり取りでアドバイスをしている。	職員は日頃の会話の中で入居者の発言内容をケース記録に記載し、本人の意向は必要に応じてケアプランにも反映させている。意思疎通が困難な入居者には歌を一緒に唄ったり、靴を脱ぐ動作はトイレに行くサインであることを職員が把握しトイレ誘導を行う等、入居者それぞれの習慣を把握し、その方の意向に沿った個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の事について話される事に、耳を傾けることにより家族が知りえなかった話なども出てきて、話すことにより安心した様子も多く窺える。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、食欲、意識状態など確認し、変化が見られたら、職員間で共有し主治医への連絡などスムーズに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新たな気付きなどで、ケア変更の必要性があれば、即現場において話し合いを持ち(検討会議)介護計画に反映させている。	職員は日頃の生活の中で得た入居者の新たな情報を記録に残している。家族には面会時や電話連絡時に意向を聞き、ケアプラン見直し時の検討会議で話し合い、目標設定等に反映させている。日頃、支援を実施する中で、目標に沿った実践ができているか、入居者本人の能力に見合った目標であるか等、モニタリングを実施し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に実施記録の残せるようになっているので、介護計画が日常生活の中で活かしているかどうか、分かるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が県外在住であったり、コロナ禍により身動きが取れない場合も多く、家族の代行で行うことが増えてきている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康維持のための訪問診療、訪問歯科診療、また訪問理美容や訪問移動販売など地域資源は、積極的に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後すぐに、主治医と家族と施設職員と三者面談を行い、入居後の医療提供の説明を受けて、納得が得られるようにしている。これまでのかかりつけ医からは、主治医へ紹介状をもらい同じような医療提供を継続できる様にしている。	入居時に以前のかかりつけ医から紹介状をもらい、医療連携を図った上でホームの専属医を主治医として月2回の訪問診療を受けている。主治医は5箇所の医療機関と連携が取れるチーム体制を築き、救急搬送時にも柔軟な対応ができる関係を築いており、家族や職員の安心感に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持つ職員は、日々の状態・服薬などの副作用や管理に気を配り、介護職と共に協力し合っている。また、異常がある時は主治医の看護師とも連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、早期の治療と退院計画を、家族と連携して医療機関に伝えている。退院後の経過観察や、通院等の支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の主治医との面談で、一応の方針は決まっているが、可能な医療提供を再度見つめ直し、家族の気持ちを何度か、再確認している。	ホームは入居時に、入居者本人及び家族へ看取りについて意思確認を行っている。専属医が看取り期を判断し、家族への説明と同意を得ている。家族の希望や必要に応じて訪問看護師が点滴や喀痰吸引等の医療的なケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒・誤嚥・剥離・意識消失・脳梗塞・心筋梗塞・肺炎などの勉強会を、年に1回は実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に3回の避難訓練は実施して、その都度、持ち上がる課題に向き合うようにしている。水害については状況に応じた避難経路などのシミュレーションを行っている。	ホームは昼夜間及び風水害や地震等の自然災害を想定した避難訓練を実施している。職員が入居者を背負って避難訓練を行うなど実践的な訓練を行い、避難訓練の様子は写真に撮り残している。訓練後は各職員が反省点を検討し、次回の訓練に繋げている。風水害訓練については避難経路を確認する等シミュレーション訓練を行い、職員の防災意識を高めている。	緊急時に外部へ持ち出す入居者情報一覧表を整備している。避難場所等で入居者情報を円滑に提供できるよう、例えば入居者の状態(車いす・杖歩行)等が分かる全身写真を加えるなど、情報を更に充実させることに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、思いやりのある丁寧な言葉かけを常としている。現在、虐待委員会にて、スピーチロックについて検討している。	年間研修計画を定め、資料を基に接遇マナー研修を行っている。虐待委員会開催時には入居者への言葉遣いについて話し合い、思いやりのある丁寧な言葉かけに配慮している。ホームで知り得た入居者の個人情報、職員の入職時と退職時に誓約書を取り、情報漏洩がないよう努めている。入居者の写真掲載等も本人や家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行可能なことは出来るだけ実施しているが、不可能な場合(認知度の度合い・季節・時間帯など)は、その時や環境に応じて、決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりはあっても、起床や就寝時間、食事や入浴など、その方の気分や体調などに応じて、ずらしたり変更したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問理美容を楽しみにしておられる。お化粧品や洋服に関心がある方など、全員ではないが個々に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、一番の楽しみであると思う。盛り付けや、適温提供に気を配っている。ほとんど完食が多い。テーブル拭きや配膳下膳、食器洗いや拭き上げ、かたづけまでお願いしている。	食事は食中毒の発生予防に留意し、九州産、日本産の食材を使用した宅配サービスを利用している。入居者に応じた食事形態や炊飯、汁物はホームで調理して提供している。入居者の中には丁寧に食器を洗ったり、テーブル拭き等ができる入居者が食事に関わりを持っている。入居者に何が食べたいか聞き取り、好みの食事を提供できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はその方のレベルに応じて、食器など配膳方法を変えたり、食べやすい方法を考えている。トロミをつけたり、キザミ食やムース食を使う時もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、重要視しており食後は口腔ケアの支援をしている。また、ケアだけでは不十分なので、定期的に訪問歯科により援助もしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用しない人は、失禁がないか上手に見守っている。排泄チェック表の活用で、スムーズなトイレ誘導が出来るようにしている。	職員は入居者個別の排泄支援とトイレでの排泄支援を実施し、排泄チェック表を基に各入居者の排泄状況を把握している。また、夜間は睡眠を妨げないことを優先に考え、パッドの給水容量、種類を選択して使用している。パッド等の使用についてはその支援内容を家族に説明し、了承を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつの提供には配慮し、現在は、廊下を行ったり来たりする程度の運動しか出来ないが、便秘がひどい方は、主治医に相談して下剤を使用されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴出来るようにしている。拒否が見られたり、体調が悪いときは別の日に変更している。	ホームは日曜日以外は入浴の準備を行っており、その日の体調不良や拒否があっても代替日に入浴ができる体制を整えている。足浴実施の際にはアロマオイルを使用し、入居者がリラックスできるよう工夫している。菖蒲や橙を入れ、季節を感じ、楽しく入浴ができるよう取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ホールで過ごしたり、居室でゆっくり過ごしたりして、のんびりされている。活動的に動かれる方も、休憩する時間を自分なりに持っておられる。夜間は、比較的安眠される方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬にならぬように、薬の担当者が管理をして、服薬時は、手順とチェック体制をとっている。服薬後の副作用や状況の変化には、気があったら主治医に上申している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掃除・食器洗いと後かたづけなど快く手伝ってもらっている。編み物や縫物などをされる方もいる。また、レクリエーションには、声を掛け参加してもらって。体を動かすことが苦手な方もいるので、無理強いせずに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの感染予防のため、ほとんど外出支援は出来ていない。夏になる前に、ハウステンボスへ希望される方を、一名外出支援を行った。昨年、コロナ感染者(職員)が出た際、入居者の隔離措置をとったのがトラウマになっていて、現在、外部との接触は極力避けている。	コロナ禍により、以前のような外出支援はできないが、入居者の希望により個別で外出を支援することでコロナ禍であっても可能な範囲で外出できるよう努めている。今後も感染状況を見極めながら、希望に応じた外出ができるよう計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングの機会は、今のところトラック便の買い物や、病院の帰りにコンビニに立ち寄って、好きなお菓子などを買われる。ほとんど、職員がお金の支払いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外にお住いの家族からは、電話や葉書やプレゼントなどもらわれている。自分から、電話してと要求される方には、その都度対応している。こちらからは、写真や近況の手紙を職員が送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらうため、職員持ち込みの季節の花を飾ったり、季節のディスプレイで工夫したりしている。	季節感のある手作りの壁画をフロアの壁に飾り、入居者は共有空間で季節を感じながら穏やかに過ごしている。各階の入り口にはイベントに沿った置物を飾り、入居者や訪問者がこの時季のイベントを知る機会となり、目で楽しめる工夫がなされている。定期的に換気を行い、次亜塩素酸水を使用して手すり等の拭き掃除を行うなど、コロナ対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごしたり、居室で過ごしたりするのは、個人でまちまち。居室で過ごしていても、他の方が気に入るのか、何度もナースコールで確認されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当者が中心となり整理整頓を行っているが、こちらもコロナ禍の影響により、家族の立ち入りが出来ず、必要最低限の場合が多い。あまり物を置かず、清潔を保てる状態を現在は維持している。	居室は入居者の担当職員が衣替えや環境整備の支援を行っている。室内は整理整頓が行き届き、入居者が思いおもいに過ごせるよう配慮している。季節によって使用しない衣類や布団類は家族が管理し、必要時に送付依頼を行っているが、家族の負担を考慮し、今後、必要物品が収納できる場所の確保を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方は、ほとんどが自室やトイレや洗面所やホールの場所は、理解されている。自室の掃除やかたづけは出来る方もいるので、それを維持出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 はるか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりと楽しく自由にありのままに、馴染みの環境で、地域と共にの理念は、世の中が時の流れで変化してきても、変わらず目標として努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域や施設行事もなくなり、交流はほとんどないが、公園掃除の際の菓子の差し入れや地域の商店でのお付き合いは、細々と行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症に関して興味を持っていただけるような事や事例などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり感染対策のため、運営推進会議のメンバーの方々には、資料など送付している。返信では、こちらを労う言葉をいただくことが多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項などは必要に応じてメールにて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会や委員会の開催により身体拘束適正化についての共有を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を発足し、メンバーを中心に事例検討会議など予防につなげる為の、職員間の意見をまとめて、全職員へ周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などを通して、様々な支援援助があるということは、理解出来ていると思う。全員が、その支援を積極的に話し合いに持っているかと言えば、難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解を得るための努力はしているが、家族もかなり高齢化しており、出来れば協力してもらえる援助者の立ち合いもお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接会う機会もなくなってきており、電話など通して意見をうかがうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、契約の更新時期や昇給時期、療養明けなど、年に一度の個別面談を行っている。法人本部への報告も同時に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長年勤務している職員が多く介護者も高齢化している。実績や資格などにより、昇給にもつながるので、やりがいのある環境を作るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は減っているが、オンライン研修など活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や交流会は現在、コロナ禍で実施されていないが、活動の多くは書面やオンラインでのやり取りが多い。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			deno		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や関係事業所からの情報を元に、プランの作成につなげたりしているが、入居されてからでも本人への聞き取りなど丁寧に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	県外にいて、本人との関係が上手くいっていない家族も多い。説得し、入居させることにいっばいの家族もある、色々な事情があるので、まずは家族の気持ちを安心させることに力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	核家族化やコロナ禍の影響は大きい。実際家族にお願いしたいことでも、施設で出来ることは、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは少なくなってきたが、自室の掃除や洗濯物干しやたみなど、出来ることをお互いさまでやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の現状では、難しいことが多い。出来るだけ、外部との接触を避けていることもある。お願いしたいこともあるのだが、本人に必要な物の買い物など限られたことのみ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのように気軽に施設や来訪出来ないため、馴染みの関係を継続するのは、かなり難しい。家族への便りや電話などでの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歩行可能な方が増えてから、活動も増している。仲の良い反面、言い争いが出たりする。事故につながらないよう、より良い関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りケアで退去となった家族が、2人運営推進会議のメンバーとして、活動されている。また、年賀状や電話でのやり取りをして下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	子供と会えないか、家に帰りたいとの訴えは、時々聞かれる。モヤモヤした気持ちを少しでも緩和できるように、窓越しではあるが面会をお願いしたり、電話でのやり取りをお願いしたりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後の話の中で、新たな事が聞けることもある。傾聴姿勢により、話が深くなって人生の発掘もあり得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	早めの対応が必要なため、毎日のバイタルチェックや食欲や排便状況など、確認している。体調が悪い時は、職員間での情報共有し、主治医への連絡を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見交換はいつでも出来るように心がけ、案として検討し、ケアプラン作成につなげられるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランの実施項目を設け、日々の状態と関連づけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により、家族が動けない場合も多く、出来る範囲ではあるが、家族の代行も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や訪問歯科や、買い物できるトラック便など活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後に主治医と家族と施設職員の面談があり、医療提供の説明がある。その後、家族にアンケート調査をお願いし、診療方針がだいたい決まる。個別に、他病院への受信が必要であれば、紹介してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況は主治医へ、ファックスや電話にて看護師を通じて行っている。何か特変があれば、主治医が対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要な情報は、スムーズに出せるように準備されている。早期の治療・退院に向けての働きかけを、家族や施設で連携を取りながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の面談の時に、終末期の医療は主治医と話し合われているが、気持ちに変化があればいつでも訂正出来る。施設と、医療の連携で、出来ることを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は、緊急対応の勉強会は行っている。転倒事故・剥離・誤嚥など、通常の介護の中でも対応する際に、実践的勉強は常に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に3回の避難訓練を実施。自分達で想定される事態を念頭に置き、対策を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある声掛けを、常に念頭にあげてはいるが、つつい話し言葉の上で気が緩んでしまう。虐待防止委員会や勉強会でも、スピーチロックにつながらない声掛けの方法など検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行できることと、出来ないことはあるが、希望が叶えられそうなことは、優先して実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員自身も高齢化して入居者の気持ちが分かり易くなった。特別な変化より、お互い理解し合える仲間と、穏やかに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問理美容を楽しみにされたり、日々男性は髭剃り、女性は髪の毛や顔をきれいにする支援をしている。自身で身の回りを整える方は、おしゃれも楽しんでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	積極的ではなくても、出来るかたには、後かたづけやテーブル拭きなど、お願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、食事を提供してもらっている業者の管理栄養士が行っており、栄養表示もあるので参考にしている。食や水分の摂取が難しくなると、食事形態をムース食を取り入れるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は、職員は十分に理解しており、丁寧な援助をしている。また、認知症が深くなると、口を開けることの拒否や磨くことの拒否も見られる。訪問歯科を利用し、適切な口腔ケアも援助してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、失禁につながらないように声掛けをしている。誘導しても失禁する方もいるが、不潔にならないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事内容のみでは、排便につながらない方も多く、下剤を処方してもらっている。自立した方は、いつ排便したのか分からない時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回で行っている。排泄で汚れた時など、その都度行っている。また、拒否者がいたら日を改めたり、体拭きや足浴だけで、代替えしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が、夜間は良眠です。もちろん、昼寝もしっかりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、担当者が管理し、服薬時の事故を避けるため、手順とチェック方式を取っている。何か、変化に気付いたら、主治医に上申するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か手伝いたいという方には、掃除や食器洗いなどお願いしている。本や新聞を読まれたり、興味のあるパズルゲームをしたりと、個人差はある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この2年間で、外出希望の声は薄れたが、感染予防を行い、病院受診の帰りなど立ち寄れる機会を、徐々に増やしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週2回来てもらっている、トラック便での買い物を楽しみにされている方もいる。お金を直に支払うことはないが、どれくらいの物をいくら買うなどと、自己決定される。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、ご家族や友人とのやり取りを電話や葉書でされる方がいる。家族は、誕生日や母の日や父の日など、イベントの時にプレゼントを送ってくださる方もいる。こちらからは、近況状況として、電話や手紙などでお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染予防のために居室やホールやトイレなど清潔保持に心がけ、空気の入れ替え、窓からの空気の入れ替えなどで、季節を感じられるように努めている。今は、清潔中心で、居室も簡素にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歩行自立な方は、比較的好きなように自身の居場所は確保されている。たまに、好きな方の居室で、話し込まれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当者を中心に、整理整頓を行っている。必要物は家族に持ってきていただいていたが、コロナ禍で、あまり物は増やさず、清潔な空間を第一にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を挟んで、右と左の分かり易い居室配置で、間違える方は、ほとんどいない。居室のネームプレート配置やトイレや洗面所も分かり易い。自分の部屋が唯一無二のものであるよう支援している。		